

平成27年度 社会福祉法人ばなな 事業計画

平成27年4月1日～平成28年3月31日

「法人基本方針」

当法人の理念を基に、その使命実現のため眼前の課題を着実に実現していく。

- 一、障がいがある人の自立を支援し、誰もが、「ふつうの暮らしを幸せに」できる豊かな人生の支援をします。
- 二、地域住民及び関係機関を巻き込み、共に協力し、豊かな福祉づくりを目指します。
- 三、自由な発想の基、みんなが幸せで前向きに働ける豊かな組織づくりを目指します。

1) 事業の共通基本方針

1. 生活介護、就労継続支援B型、居宅介護及び介護保険、グループホーム、相談支援事業者としてのあるべき姿を利用者・家族の意見を参考に検討し、今後もバランスのとれた事業運営を進めていく。
2. 高齢化する家族・利用者の現状を考慮し、365日・24時間の充実したサービス提供を今後も課題として、引き続き検討する。特に生活の場でもある、グループホームと居宅介護サービスについては、質の向上を目指していく。
3. 不安定要素の多い社会情勢を考慮し、堅実で安定した事業運営が必要である。また、公的な支援を待つのみでなく、収支のバランスを保つと共に資金の有効活用に努め、事業遂行資金の積み立て、不時の出費に備える。なお、モンキーばななについては、早急な転居先(分割)が必要なため、今後はより一層、建設積立金を確保していく。
4. 中区作業所交流会、西区作業所ネットワーク、パッセネットワーク、小規模法人連絡会をはじめ、他事業者との連携及び協力を強化していく。また、積極的に専門機関(中及び西区基幹相談支援センター、授産活動支援センター等)とも、連携を取り合いながら、法人(事業所)として、幅広い見識を活用していく。
5. 多様化且つ複雑化する利用者及びその家族のニーズに充分に応えるため、職員のスキル向上は、もとより、必要な知識と能力を兼ね備えるべく、定期的に職員研修を行い、可能な限り、積極的に外部研修に参加をしていく。

2) 利用者支援の基本的な法人としての考え方

1. 日々、違う現場では利用者が今、「何を求めているのか」という、わずかなサインを見逃すことがないように、コミュニケーションを図り続けていく。また、利用者のことを一番に考え続けられるよう、学習会や研修会へ積極的に参加し、実践を積み重ね、職員自身が生涯学習に努めていく。
2. 質の高い支援を提供していくためにも、様々な状況や環境の変化によって、多様化する利用者のニーズをいかなる場合も、主観的にならずに受容する。また、職員個人の考察や観点到ることなく関係機関や組織とも緊密に連携を図り、『利用者の意思と可能性を否定することなく』、それぞれに合った支援を提供していく。

3. 職員は利用者に対して、『安全と安心』を常に意識して支援を行っていく。また、意識の中では、『人は誰でも必ず、ミスをする』ことも冷静に認識しておく。この二つを併せ持って、事故発生時の対応や未然に防止できる事故対策などをマニュアル化し、全職員間で周知し、共有をしていく。

3) 社会福祉法人としての在り方と当法人の今後の課題

1. 先般の社会福祉法人制度改革の最終報告がなされ、今後、益々、法人としても専門知識を有する者が法人経営を担っていかなくてはならない、時代へと突入した。今後の経営については、幅広く、他法人とも連携し、社会貢献（地域貢献：いわゆる、公費の入らない事業）を担っていかなくてはならない。そのためにも、日ごろからの情報収集、地域のニーズ掌握等、不断の努力で今後も法人が存続できるように実践を進めていかなくてはならない。
2. 当法人においては、事務局が中心となって事業計画を策定している次第である。今後も引き続き、事務局が担わなくてはならないが、常勤職員を中心に事業の在り方、法人の在り方等、次代を担っていく職員の育成をしていかなければ、将来像は厳しいものとなる。日々の実践の中で今後はさらに、育成強化を図っていく次第である。
3. 当法人が展開する障害福祉サービス事業について、過去の慣例に倣い、週休二日となるように日中系サービスは実施していた。しかしながら、社会的情勢を踏まえると、サービス業という視点、さらには税金で経営する以上は、どこまでも、利用者のニーズに沿わなくてはならない時代になっていると言わざるを得ない。当法人は利用者のニーズに鑑み、過日のグループホーム創設を持って、365日・24時間のサービスへと踏み出したことを機に、日中系サービス事業も可能な限り、利用者のニーズを受け止めて、開所日数の増加に踏み切りたいと検討中である。